

見附民商 会報

2025年12月8日

第1771号

☆大忘年会!!

あえて年末ぎりぎりにやります

このまま年末年始に突入だ!!

とき 12月26日(金) 18時〜
ところ 市内、「ゆるりや」
会費 5,000円

お願い

・会員の方のお知り合いで特に米農家の方が居らっしゃいましたら是非ご紹介ください。
申告等、民商がお手伝いします。

☆源泉所得税・年末調整相談会

とき 12月15日(月) 16日(火)

13時〜16時

当日持って来て頂きたい物

- ① 生命保険・地震保険控除証明書
- ② 国保・国民年金料控除証明書
- ③ 昨年の資料(事務局生命線)

♪坊々、良い子だ。ねんねしな〜

♪いゝまも、昔も、変わりなく〜

日本ふかし噺 第4話

ここは日本の本國のある下町
よろず相談所勤務の武蔵にセガシの猪ノ吉が珍しく話しかけてきました。

猪ノ吉 『オヤジ。聞いた話によると、山向こう

の「越の村」に電気とやらを作る小屋があるそつだが、何の話だい?』

武蔵

『うゝん。難しい事は分らんが、ある石を使って電気とやらを作る小屋らしい。石の周りが熱くなって、お湯を沸かし、その湯気でもって羽車を回して電気とやらを作るらしい。さしずめ泡島浦村名物の「わっぱ煮」みたいなもんだな』(少し違つかも)

猪ノ吉

『しかし、作った電気は全部、江戸へ運ぶみたいじゃねーか。それに石の燃えカスの処分も大変で、捨てる所が無えーみたいだが』

武蔵

『そうさ。その見返りに越の村には、1年間で100万両、十年で1千万両の銭が入るみたいだ。札束で両頬を引っ叩くってヤツよ。小屋の管理人は絶対安全だと言っているがな』

猪ノ吉

『そんなに安全なら江戸のお台場あたりにその発電小屋を作ったらどうなんだい?』

武蔵

『ウゝン確かにな。だが越の村の「鼻丸村長」も金に目がくらんで大乗り気だし、江戸の旦那衆から言われれば、どうにもならねー。』

猪ノ吉

『鼻丸村長の目が覚めるように昔チャンバラトリ才が使ってた大型ハリセンで後頭部を引っ叩いてやるヤツはいないのかねー』

武蔵

『周りの議員も村長達も鼻丸村長に睨まれたくねーから、借りてきた猫みてーだ。江戸の小沼村長(厚化粧で本当の顔を誰も知らない)も今頃ウハウハだ。亀がひっくり返ったみたいに手と足、両方叩いて喜んでいそ』

猪ノ吉

『なんかが違ふと思うんだがな〜』

※この物語はフィクションであり、登場する人物は実在しません。